

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 15020010

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B		
単位施策	3	消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	救急業務体制整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	15 消防支署		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	救急救命士研修回数			#N/A		
事業目標	16回		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	有 救急救命士法、救急業務実施基準		
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	救急救命士育成(研修) 救急救命士採用 気管挿管病院実習 処置拡大2行為(研修) 気管挿管再認定(研修) ビデオ硬性喉頭鏡(研修)	救急救命士育成(研修) 救急救命士養成採用(1人) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 救急救命士採用(1人)	救急救命士育成(研修) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 処置拡大2行為(研修) 気管挿管病院実習 気管挿管再認定(研修) ビデオ硬性喉頭鏡(研修)	救急救命士育成(研修) 処置拡大2行為(研修) 気管挿管病院実習 ビデオ硬性喉頭鏡(研修)
	事業費(千円)	16,179	5,550	5,682	1,557	1,740
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	16,179	5,550	5,682	1,557	1,740	1,650
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,975	4,522	5,339	902	1,169
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	12,975	4,522	5,339	902	1,169	1,043
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 救急救命士育成(研修) 6人 救急救命士養成採用 1人 気管挿管病院実習 1人	(実施内容等) 救急救命士育成(研修) 9人 救急救命士採用 1人	(実施内容等) 救急救命士育成(研修) 7人 気管挿管病院実習 1人	(実施内容等) 救急救命士育成(研修) 6人 処置拡大2行為(研修) 1人 気管挿管病院実習 1人 気管挿管再認定(研修) 2人 ビデオ硬性喉頭鏡(研修) 1人	(実施内容等) 救急救命士育成(研修) 4人 処置拡大2行為(研修) 1人 気管挿管病院実習 1人 ビデオ硬性喉頭鏡(研修) 1人
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 3研修	2研修	2研修	5研修	4研修
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 81%	94%	58%	67%	63%
	全体達成率 28%	61%	67%	74%	80%	
	備考欄					

事業名	救急業務体制整備事業	評価者	管理職	職氏名	支署長	安本 明志美
		評価者	作成者	職氏名	救急係長	高野 一晃

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	職員(救急救命士)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	研修計画に基づく救急救命士の派遣	
【抱える課題やニーズは】	救急活動の充実	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	救急現場に救急救命士が出勤し、重度傷病者に高度な救命処置を実施する。	① 病院研修及び生涯研修	目標年度	平成29年度
			目標値	6人
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	研修を受けることにより、救急救命士が高度救命処置を実施できるようになり、重度傷病者の救命率の向上、予後に抱える後遺症の軽減が図られる。	② 気管挿管病院実習	実績値	6人
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	病院研修及び生涯研修へ救急救命士を派遣	札幌医大付属病院研修(1人)、東徳州会病院研修(3人)、処置拡大二行為研修(1人)、ビデオ硬性喉頭鏡研修(1人)に救急救命士を派遣して必要な研修を受講する。		
	気管挿管病院実習(広域紋別病院)	医師の指導のもと、気管挿管病院実習を実施(1人)。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	現有救急救命士の生涯研修及び実習は義務付けとなっている。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	現有救急救命士の生涯研修及び実習について達成できた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	現有救急救命士が生涯研修及び実習を受けたことにより、町民に対し高度な救命処置を実施できる資格を取得した。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	救急救命士の資質向上を図り、救急傷病者に対し高度な救命処置が実施できる。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
救急救命士の実習により、救急傷病者に対し、有効的な救命処置ができるようになった。 研修については、手技の向上が認められるため今後も必要であると考え。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
町民に対し高度な救急活動を行うことが、安心できる町づくりを目指すには必要であり、継続事業であることが適当である。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止